

国際委員会(第 25 期・第 15 回)議事要旨

1. 日 時：令和 4 年 1 月 25 日（火）12:30～14:00
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：高村委員長、佐野委員、白波瀬委員、荒井委員、尾崎委員、沖委員、梶田委員、小池副委員長、三枝委員、小谷委員
(事務局)：寺内国際業務担当参事官、国際業務担当室員

議 題

(1) 国際委員会議事要旨（案）(第 13 回)について

委員長より資料の説明後、承認された。

(2) 国際活動の強化について

①令和 4 年度概算要求結果

令和 4 年度予算（案）について事務局より報告した。

②日本学術会議の国際的発信の強化

学術会議英文 HP の改善案等について事務局より説明した。今後できるところから見直し、全体的な HP 改善・見直しについて予算を踏まえつつ広報委員会と連携して取り組むこと、英語 HP も学術会議全体の広報戦略と一貫性あるものとする事等が指摘された。

③日本学術会議の国際戦略

12 月総会での会員からの意見を反映させた「日本学術会議の国際戦略たたき台（令和 3 年 11 月 国際委員会）」の修正案について審議を行った。期が変わるタイミングで、分科会等の設置までの間、代表派遣など国際活動に支障が起きる場合があり、期首における分科会等設置の在り方や代表派遣手続の在り方等を検討する必要があるとの意見が出された。また、国際学術団体の役員等、国際活動を中心的に担っている者が会員・連携会員になっていない場合があることについての対応策等について意見が出された。今後、国際委員会下の分科会からの意見も含め、取り扱いは委員長に一任することが了承された。

④提言の英訳の取扱い

「意思の表出等の作成手続について（令和 3 年 12 月 24 日 日本学術会議第 320 回幹事会決定）」における英訳の取扱い規程の修正案について審議が行われた。委員会の総意として、できるだけ多くの意見表出を英語で発信することとされた。その上で、要約の英訳は分科会等が行い、学術会議の翻訳に係る予算でネイティブチェックを行うこと、本文についても、学術会議の予算を踏まえ、ネイティブチェック等を行えるようにすることとされた。また、機械翻訳ソフトの導入について事務局で検討すること、学術会議の予算以外を使用して英訳等をする事も可能であることを規定に明記することとされた。

(3) その他

G サイエンス学術会議 2023 及び次回 S20（インドネシア開催）のスケジュールについて事務局より報告した。

以上